

KIRIKOU ET LA SORCIÈRE



みんなく映画会／みんなくワールドシネマ プレイベント

「みんなくフォーラム09夏 生まれかわったアフリカ展示」企画

夏休み親子映画会

キリクと魔女

1998年／フランス映画／71分／日本語吹替版アニメーション
監督／ミッシェル・オスロ 音楽／ユッサー・ンドゥール
日本語版翻訳・演出／高畑 勲 声優／浅野温子 神木隆之介

ごあいさつ 須藤健一（国立民族学博物館館長）
解説 川口幸也（同館文化資源研究センター准教授）
「それぞれに描かれたアフリカ」

2009年 8月3日[月] 13:30～15:15（開場13:00）

場 所 国立民族学博物館 講堂

参加料 無料（ただし、常設展をご覧になる方は別途観覧料が必要です。）

定 員 450名 事前申込は不要です。整理券番号順にご入場いただけます。
整理券は10:00より講堂入り口にて配布いたします。

主 催 国立民族学博物館

お問い合わせ 国立民族学博物館 広報企画室企画連携係 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
TEL. 06-6878-8210（平日9時～17時） <http://www.minpaku.ac.jp/>

 国立民族学博物館

関西から
文化力
POWER OF CULTURE

「みんなくフォーラム09夏 生まれかわったアフリカ展示」企画

夏休み親子映画会

国立民族学博物館では、2009年から展示場のリニューアルを始めています。地球規模で急速に変化する時代を、共に生きる人びとの、暮らしをリアルに伝えたい！そんな研究者の思いを込めて、「アフリカ展示」と「西アジア展示」を大胆に一新しました。「みんなくフォーラム09夏」では、新しく生まれ変わったアフリカ展示に関連する催し物が次々と続きます。2009年の夏はみんなくで、アフリカの風を感じてください。期間中、夏休み親子映画会としてアニメーション「キリクと魔女」（日本語吹替版）を上映します。アフリカを舞台に、小さいキリクが愛と勇気で立ち向かう冒険を楽しみながら、親子やお友達と一緒に、人びとが平和に共生する社会のあり方を考えてみませんか。

2009年8月3日[月] 13:30～15:15 (開場13:00)

場所 国立民族学博物館 講堂

参加料 無料 (ただし、常設展をご覧になる方は別途観覧料が必要です。)

定員 450名 事前申込は不要です。整理券番号順にご入場いただけます。整理券は10:00より講堂入り口にて配布いたします。

主催 国立民族学博物館

「キリクと魔女」

1998年/フランス映画/71分/日本語吹替版アニメーション
監督/ミッシェル・オスロ 音楽/ユッサー・ンドゥール
日本語版翻訳/演出/高畑 勲 声優/浅野温子 神木隆之介

映画解説

魔女に呪いをかけられたアフリカの村で、母親の胎内から自分の意思で生まれた小さいキリクは、「なぜ? どうして?」を解決するために冒険の旅に出る。次々と襲いかかる困難に、彼は知恵と勇気とバイタリティーで立ち向かっていく。シンプルで色彩豊かな美しい映像、ユーモアとちょっぴりの毒と心地よいアフリカ音楽で、大人も楽しめる、フランス・アニメーションの鬼才ミッシェル・オスロ監督の長編デビュー作。あのスタジオジブリが日本に紹介する世界のアニメーションの第一弾となった。人類発祥の地ならではのエネルギーと、子どもがもつ無限の可能性を秘めた「小さな救世主」に、明るい未来を託したくなる、愛と救済の物語。

それぞれに描かれたアフリカ

国立民族学博物館(みんなく)の常設展示のアフリカ部門が、このたび、開館以来30年以上を経てあらたに生まれかわりました。新しい展示では、「歴史を掘り起こす」、「働く」、「憩う」、「装う」、「祈る」、「アフリカのいま」の六つのセクションに分けて、アフリカの豊かな歴史と、それに根差しつつ多様ないまを生きる人びとの暮らしを、モノや写真、映像を通して具体的に紹介しています。人間が働き、憩い、装い、祈るときの道具立てや表情、しぐさ。そこに、さまざまな喜びや悩みを抱えながら、人とのつながりの中に安らぎを見出し、人生を前向きに生きようとしているアフリカの人びとの姿を見ることが出来ます。

アニメ映画「キリクと魔女」の原作、制作、監督を一人でこなしたフランス人ミッシェル・オスロは、西アフリカのギニアで子ども時代を送り、そのときの体験がこの作品のベースになっています。また、音楽を担当しているユッサー・ンドゥールは現代セネガルを代表するポップ・ミュージックのスターです。

二人の映像と音楽で描かれた神話的なアフリカ、みんなくの展示で描かれているアフリカの歴史と現在、あるいはテレビや新聞で描かれているアフリカ、アフリカ。それぞれの多彩なアフリカを自分の目で見て、自分なりのアフリカを思い描く手がかりとしていただければと思います。

〈予告〉国立民族学博物館では2009年9月から「包摂と自律の人間学」をテーマに新しい機関研究を開始します。この機関研究と連動して、テーマにふさわしい映画を選び、研究者による解説付きの上映会を実施します。

- 第一回 9月26日[土] 「グラン・トリノ」
2008年/アメリカ映画
- 第二回 10月31日[土] 「そして、私たちは愛に帰る」
2007年/トルコ=ドイツ合作映画

「包摂と自律の人間学」

グローバル化の進展にともない、日本国内にはすでに200万人以上の外国籍の人びとが居住しています。また、17組に1組が国際結婚をしている時代です。多様な文化的背景をもつ人びとの共生を実現するために、どのような社会を築いていけばよいのでしょうか。新しい機関研究「包摂と自律の人間学」では、人々の違いを承認=<包摂>し、移民や難民に限らず、無国籍者、障害者、失業者など社会的に弱い立場にある人びとが自分らしさを生かすこと=<自律>のできる公正で平等な社会を実現する方策について考察します。そして、世界各地に視野を広げて、支援の現場を検討してゆきます。

「みんなくフォーラム09夏 生まれかわったアフリカ展示」関連イベント

- 8月3日(月)～23日(日)
クイズ「みんなQ アフリカ編」
- 8月13日(木)
ギャラリー・トーク「アフリカの音の世界 親指ピアノとマリimba」
- 8月14日(金)
ギャラリー・トーク「コートジボワール人陶芸家が見た新しいアフリカ展示」
- 8月22日(土)
コンサート「アフリカン・パーカッション セネガル・サバールの響き」
(23日(日)は関西テレビ放送なんでもアリーナで開催します)
- 8月23日(日)
ウィークエンド・サロン「新しいアフリカ展示ができるまで」

★詳しくはみんなくホームページをご覧ください。
<http://www.minpaku.ac.jp/museum/>

交通のご案内

*国立民族学博物館(みんなく)は大阪・千里の万博公園内にあります。「みんなく」とは大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国立民族学博物館の愛称です。

●大阪モノレール

「万博記念公園駅」下車徒歩約15分
*映画会のみ参加される方は、自然文化園を通過する際、入園料が必要となります。ただし、常設展をご覧になる方は、みんなくの観覧券をゲートにてお買い求めになれば無料で通行できます。

「公園東口駅」下車徒歩約15分
*「公園東口駅」からは自然文化園を通過せずに来館できます。

●バス

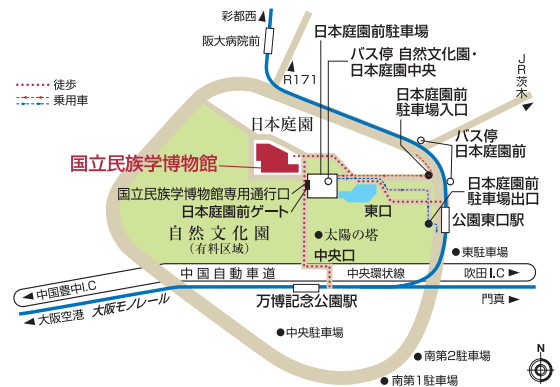
〔近鉄バス〕(阪大本部前行行き) 阪急茨木市駅から約20分
JR茨木駅から約10分「日本庭園前」下車、徒歩約15分
〔阪急バス〕(万博記念公園駅経由千里中央行き)
阪急茨木市駅から約20分、JR茨木駅から約10分
「自然文化園・日本庭園中央」下車、徒歩約5分

●タクシー

万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れることができます。下車、徒歩約5分

●自動車

駐車施設が無い「みんなく」への車の乗り入れはできません。万博記念公園の駐車場(有料)をご利用願います。最寄り「日本庭園前駐車場」から徒歩約5分
*「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある国立民族学博物館専用通行口をお通ください。



お問い合わせ

国立民族学博物館 広報企画室企画連携係
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
TEL. 06-6878-8210 (平日9時～17時)
<http://www.minpaku.ac.jp/>

